

IMO の GHG 削減中期対策による輸入品物価へのパススルー効果

松田琢磨

Abstract

本稿は、国際経済・貿易を支える国際海運・物流分野の近年のデジタル化の進展を踏まえ、国際海事機関（IMO）による温室効果ガス（GHG）削減の中期対策が段階的に強化されることで、日本の輸出入に関わる海運会社が直接的な影響を受け得る点に着目する。その結果、運賃の上昇を通じて輸入物価が押し上げられ、最終的には消費者物価へ波及することが予測される。本研究の目的は、IMO の GHG 削減中期対策に伴うコンテナ運賃の上昇が日本国内の輸入物価に与えるパススルー効果を定量的に分析し、その影響の範囲を明らかにすることである。分析では、第一段階で非コモディティ財の輸入物価を、第二段階でコアコア消費者物価指数および総合物価指数を推定し、その効果を検証した。推計の結果、コンテナ運賃の上昇は統計的に有意ではあるものの、為替変動や原油価格の上昇に比べると物価へのインパクトは相対的に小さい。以上より、中期対策に起因する運賃上昇が生じても、消費者物価へのマクロ的パススルーは限定的であることが示唆される。

Keywords: コンテナ輸送, パススルー

JEL Classification: R41 , R48